

震災に思ふ(九)

あれから四ヶ月が経過した。前号に続いて海外からの援助の一端を思い起こし、記憶に留めたい。豊かな国も貧しい国も、心づくしの物資を送り、同じ地球市民である我々日本人を助けてくれた。その恩に報いるために私どもは何なすべきなのか。まづ立派な日本人となつて世界中の人々から評価されるやうに人間としての磨きをかけねばなるまい。そして、地球の環境を守るための方策、戦争を阻止できる世界政府の建設、さらに宗教争ひを止めさせる優れた理論の構築等々がいま日本人に求められてゐる。

さだまさし作の「防人の詩」は、戦争で散華した人たちを追悼した歌だが、さういへば、東北地方の人々は『万葉集』の昔から、防人として果敢に国の守りのために生命を捧げてきた。

大震災とその直後の津波で命を落とした人たちも、ある意味で残された私どもに、無言の中に強く生きよ、と天界から声援を送つてゐるだらう。逝つた人々に、このやうに見事に復興できました、と手を合はせ胸を張つて報告しなければ・・・。

防人の詩

おしえてください
この世に生きとし
生けるものの
すべての生命に
限りがあるのならば
海は死にますか
山は死にますか
風はどうですか
空もそうですか
おしえてください
私は時折
苦しみについて考えます
誰もが等しく抱いた
悲しみについて
生きる苦しみに
老いてゆく悲しみに
病いの苦しみに
死にゆく悲しみに
現在の自分と

答えてください
この世のありと
あらゆるものの
すべての生命に
約束があるのなら
春は死にますか
秋は死にますか
夏が去る様に
冬が来る様に
みんな逝くのですか
わずかな生命のきらめきを
信じていいですか
言葉で見えない
望みといったものを
去る人があれば
来る人もあつて
欠けてゆく月も
やがて満ちてくる
なりわいの中で

海外からの主な支援物資

(四月十三日時点の外務省受付分)

米国

放射線防護服1万着、消防車2台、ホウ素9トン
寝袋、簡易ベッドなど。

韓国

毛布6000枚、水580トン、レトルト焼き飯
3万個、ラーメン13万袋。

中国

テント900張り、ゴム手袋326万個、仮設ト
イレ60個、ガソリン1万トン。

香港

缶詰2万個。

台湾

発電機590台、毛布・衣類4146箱、スト
プ9000台、食品16・5トン。

モンゴル

毛布2500枚、防寒着600着。

タイ

毛布3万6000枚、サバイバルキット1100個
ラーメン2万8000食。

シンガポール

毛布4350枚、マットレス200個、
非常食4400食。

インド

毛布2万6740枚、水10トン、ビスケット1
0トン。

インドネシア 毛布1
万枚。

フィリピン 食料品パ
ック1500個、カ
ップメン1万200
個、パスタオル10
0枚、防塵マスク5
000枚。

マレーシア 食料品パ
ック2000個。

ネパール 毛布500
0枚。

ロシア 毛布1万72
00枚、水3・6トン。

ウクライナ 毛布20
00枚。

キルギス 水2・5ト
ン。

おしえてください
この世に生きとし
生けるものの
すべての生命に
限りがあるのならば
*海は死にますか
山は死にますか
春は死にますか
愛は死にますか
心は死にますか
私の大切な故郷もみんな
逝つてしましますか
(*印2回くり返し)

ウクライナ 毛布2000枚。

ウズベキスタン テント2000張り、毛布2000枚、防
寒長靴2000足。

カザフスタン 缶詰め。

バングラデシュ 毛布2000枚、ゴム長靴500足、ゴ
ム手袋1000組。

パキスタン 水500本、牛乳パック9トン、ビスケット
13・5トン。

リトアニア 毛布2000枚、寝袋300点。

トルコ 毛布・シャツ5000枚、ツナ缶4万9000個。
ウズラ豆缶2万個。

イラン ツナ・インゲン豆5万缶。

イスラエル 携帯トイレ150個、手袋8290組、フリ
ース毛布6000枚、コート1万着。

スロバキア Tシャツ、ズボン、シャツ各1000点。

フィンランド 放射線計測モニター50台。

スウェーデン 作業用手袋1万点。

デンマーク 毛布2万3310枚。

オランダ マットレス2000台。

ハンガリー カップラーメン4万食、桃缶8640個、チ
ョコバー2万7000個。

フランス 防護服・防護マスク2万1000着、医薬品5
トン、消費用アルコール12トン、環境測定車
両など4台。

カナダ 毛布2万5000枚、放射線計測器5159台。

コロンビア 水、黒座頭、調味料など。

ベネズエラ 毛布5トン、缶詰1190箱、水2・8トン。

グアテマラ クラッカー、栄養ドリンクなど。

メキシコ 保存食料8・4トン、衛生物品セット3・4ト
ン、水6・8トン。

ウルグアイ コンビーフ缶4600缶。
タンザニア インスタントコーヒー。
英国 水1000トン。

(中島英典)

震災に思ふ(十)

大震災に対する各国の援助の例を過去三回に渡つて掲載しましたが、紙面の関係でほんの一部しか紹介できませんでした。六月二十八日、「アジアのこぼれと辞書の会」の川上雄作氏から、「大震災に対するマレーシアの援助」と題するメールが届きましたので、紹介します。

東北大地震に対する世界各国からの援助状況についての報告がありました。該当国が多いのですべてを網羅できなかったと思いますが、マレーシアの支援についての記事がありましたので、お知らせします。

「マレーシア」政府、東日本大地震の被災地支援に50人派遣

マレーシア政府は、東日本大地震の被災者二飲料水や寝袋などの救援物資を届けるため、ボランティア50人を日本に派遣する。

3月24日付スター紙などによると、即席めん20万食など食料品200トン、飲料水100万本、毛布2万枚、寝袋5,000個、ゴム手袋2,000枚、長靴2,000足を届ける。ボランティアのメンバーは、医療・救急スタッフ、マレーシア原子力機関の職員、メディアから成る50人。先発の10人が24日格安航空エア・アジアで羽田

平成二十三年三月

東日本被災者への祈り

沖縄県護国神社 伊藤陽夫 宮司

「東日本大震災の大津波に攫はれ海川に吞まれ苦しみの

うちにあへなく玉の緒を絶えたる御霊たちをおだいに守

り導き給ひ幽世の然るべきところに進み往かしめ給ひ早

けく幸魂に更には和魂にと成らせ給ひ日日起こる余震津

波を鎮め災害に苦しむ諸人たちの身をも心をも平穏に守

り導き給ひ復興の力と叡智を授け給ひ一日も早く旧の状

態に立ち返らしめ弥増すに勝れ輝く状に蘇らせ給ひて吾

らが大和の国を神ながら永久に護り恵み幸榮へさせ給へ」

に向かった。残る40人は27日に現地向かう。来月6日までにマレーシアに帰国する予定。
ナジブ首相は「日本はマレーシアが独立して以来、長年の友好関係にある。今はわれわれが支援するときは」と語った。

沖縄県護国神社奉祝祭典

沖縄県護国神社(伊藤陽夫宮司)では、今年の四月二十三日に、第五十三回春季例大祭及び御創建七十五周年記念事業完功奉祝祭典が盛大に斎行されました。

大震災と国母

中島英迪

一、神戸では 皇后陛下は
しつかり生きて下さいと、
被災の女性にスイセンの花を
手向けられた。

東北では スイセンの花が
咲いたよろこびに、
女性はこの花の
ように生きますと
陛下に捧げまつた。

二、神戸では 皇后陛下は
家族を亡くした女性が、
ワツと泣き伏したその背中を
やさしく撫でられた。

東北では 余震におびえた
女性が握つた手を、
強く握り返し
落ち着いて下さいと
陛下は励まされた。

今上陛下による琉歌の御製、
「弥勒世よ願て 摘りたる人たと 戦場の迹に 松よ 植
ゑたん」(ミルクヨニガテイ スリタルフイトウタトウ
イクサバヌアトニ マツイヨウイタン) 大意「平和な世
界を願つて集まつた人々と、戦場の跡に松を植えました。
皇后陛下による御歌、
「鹿子じもの ただ一人子を 捧げしと 護国神社に 語
る母はも」 大意「お捧げしたのは、ただ一人の大切な
息子でした」と護国神社で話された母なる人が、今も深く
しのびれます。

御製は、平成五年に沖縄県で開催された第四十四回全国植樹で詠まれたもので、伊藤宮司は「沖縄県民にとつてもつとも相応しい場所に歌碑ができた」と語り、歌碑建立に至つた経緯をかう説明されました。
「先年、皇居勤労奉仕団の最終日の御会釈の場で、天皇陛下から『ご遺族の心の支へになつて下さい』、皇后陛下からは『英霊の御霊をよろしく願ひます』とのお言葉をいただきました。その日、帰り支度してゐるときに、宮内庁職員に託されて『瀬音』(皇后陛下の歌集)を皇后陛下から賜りました。その中に付箋が貼られてゐたのがこの御歌でした。沖縄と護国神社を思つてくださる天皇皇后両陛下のご恩にお応へしたい思ひで建立させていただきました。」
大祭祝詞では御祭神十八万の顕彰、事業完功奉告と感謝が述べられ、上欄の東日本の被災者への祈りが捧げられました。

護国の大神

護国をらむ

さいわい天の時、地の利、人の和を得て、此の度の記念事業完功をみる事ができました。此れひとえに御神徳、先人の積徳、崇敬者みなさまの真心の結果のたまものであります。心から感謝申し上げます。

時代の要請とともに急変貌したわが神社が、時局がら沖縄県の護国の大神に、神威の授けをいただきましたのは、勿論尖閣諸島の防護であります。しかし今は、東日本大震災の被災者への御加護を念ずるばかりです。

世界が認めるところ、並みの国ならば、このたびの災害のような後は、被害者の不満は一気に暴徒化し、政治的運動となりかねません。しかし、大和の国はそうはならない。なぜか。皇室が静かに存在してくださっているからです。天皇陛下のこのたびのお言葉、自主停電、その間のご祈禱の厳修、お見舞いなどご言動の素早く行き届いた、心にしみる大御心のご表明は、まさに闇夜を照らす弥勒菩薩のご来臨ご来光そのものです。なにはともあれ、
海陸(うみくが)のいづへを知らず姿なき あまたの御霊
国護るらむ (皇后陛下御歌)

です。その証拠に、中共が六月十七日に千隻の船団で尖閣の魚釣島に押しよせてくる話は消えたやに伝わっています。今なぜこの期に及んで沖縄護国神社が記念事業を完遂しえたか。天意天命を心して、御祭神のご神意、崇敬関係者の御期待にお応え申し上げるべく精進して参ります。(中島英迪)